

特許の成否を分ける！比較例を意識した実験ノート作成ガイド

研究者が特許の「進歩性」を確実に立証するために、実験段階からどのように比較例を設計し、ノートに記録すべきかのベストプラクティス。

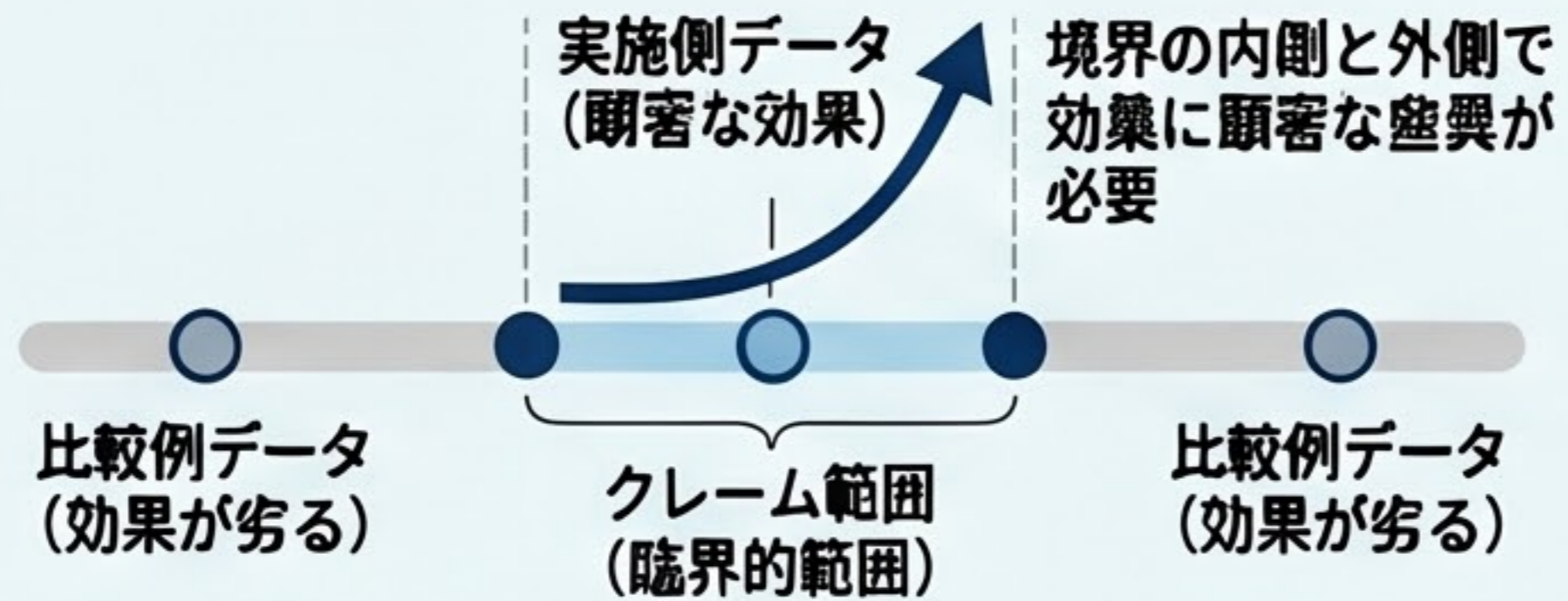
なぜ「比較例」が重要なのか？



進歩性立証の「見える化」

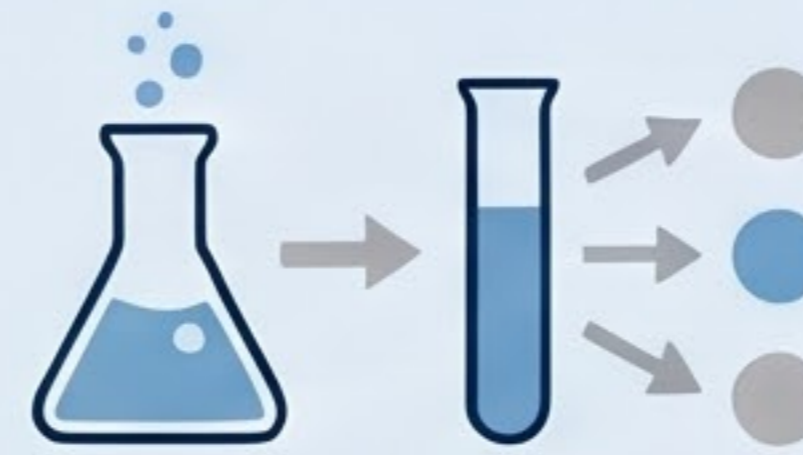
日本の特許審査基準では、引用発明と比較した「有利な効果」が、質的に異なるか、量的に顕著であることをデータで示す必要があります。

数値限定の「臨界的意義」



⚠ 偏位フィルム事件の教訓
実施例と比較例が各2件では、パラメータを支持するデータとして不十分とされ、特許が無効となった裁判例があります。

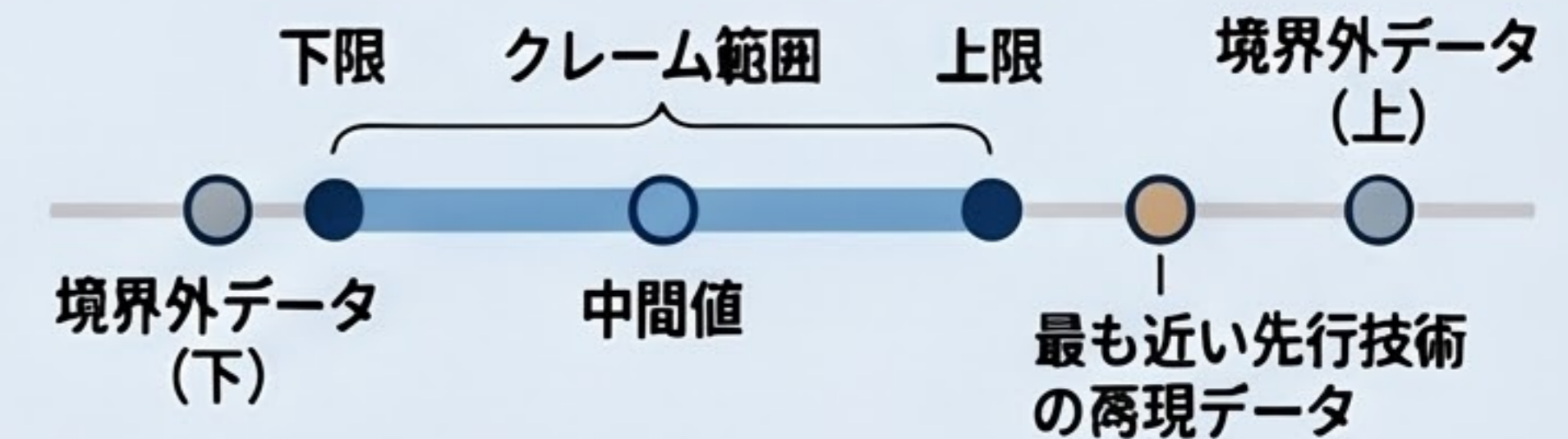
戦略的な比較例の設計原則



一変数原則の徹底

実施例と比較例の間で変更する変数は「一つだけ」に絞り、温度や測定方法などの他の条件を厳密に統一しなければ証拠力が失われます。

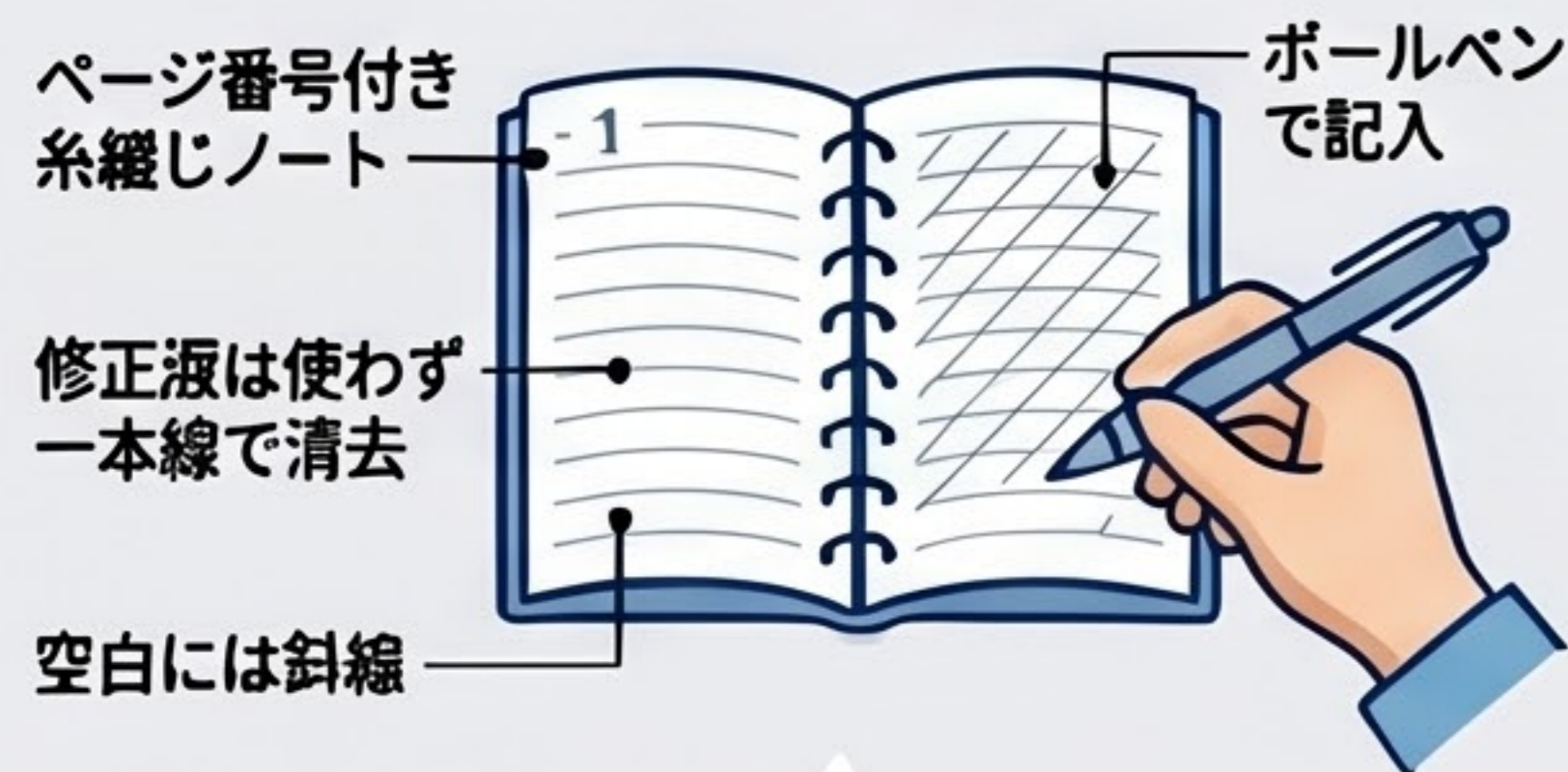
3種類のデータポイントを記録



※ 日本は「後出し」に厳しい
数値(EPU)に比べ、日本や米国は出願後のデータ補充が厳格に制限されるため、出願時点で十分な比較例を備える必要があります。

証拠能力を高める記録ルール

物理的なノートの4要件



電子実験ノート (ELN) の優位性



タイムスタンプと電子署名により、紙のノート以上の信頼能力(検索性・保水性・調理性)を無期限に維持することが可能です。

研究者が実験ノートに漏れなく記載すべき「固定条件」チェックリスト

- ☑ 材料・試薬 (ロット番号, メーカー, 純度, 使用量)
- ☑ 機器・環境 (型番, 校正日, 室温, 湿度)
- ☑ 測定方法 (詳細な手順, 生データ, 計算過程)
- ☑ 保管場所 (生データファイルのフォルダパス, ファイル名)

署名と第三者確認 (Witness)

署名

実験者署名

署名

第三者確認署名
(1週間以内捺印)

研究者が実験ノートに漏れなく記載すべき「固定条件」チェックリスト

- ☑ 材料・試薬 (ロット番号, メーカー, 純度, 使用量)
- ☑ 機器・環境 (型番, 校正日, 室温, 湿度)
- ☑ 測定方法 (詳細な手順, 生データ, 計算過程)
- ☑ 保管場所 (生データファイルのフォルダパス, ファイル名)

⚠ 避けるべき「失敗パターン」

⚠ 条件の不統一 (トマト含有飲料事件)



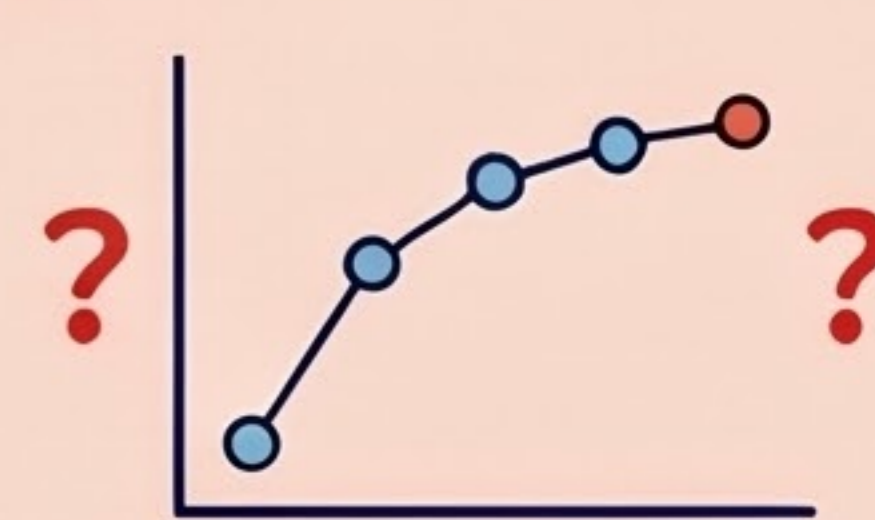
比較例と実施例でパラメータ以外の組成条件が揃っておらず、因果関係が不明として特許が無効になった事例があります。

⚠ 主観的な評価の記載



主観的なメモは、訴訟において相手方に不利に利用されるリスクがあるため、客観的事実のみを記録します。

⚠ 境界値データの欠如



範囲内の中間値データしかない場合、特許の補正で数値範囲を絞る際に「新規事項追加」として拒絶されるリスクが高まります。